

UNISDR アジア科学技術アカデミアアドバイザリーグループ(ASTAAG)会議および被災地視察(防災観光)を実施しました(2018/11/29-12/1)

テーマ：国際連携、仙台防災枠組
 場所：災害科学国際研究所

2018年11月29日に、当研究所にてUNISDR アジア科学技術アカデミアアドバイザリーグループ(ASTAAG)の第7回定例会議が開催されました。泉貴子准教授(地域・都市再生研究部門)は、2013年5月のASTAAG設立当初からメンバーとして参加しています。UNISDR アジア太平洋事務所およびアジアを拠点とする大学・研究所から15名が参加しました。今回は、ASTAAGとグローバルレベルのSTAGとの連携、科学技術の防災への導入に関するロードマップ、アジアにおけるアクションプランなどが主な議題となりました。また、2019年の防災グローバルプラットフォームにおける参加や貢献についても協議しました。今後は、これまでのASTAAGの枠組みをさらに拡大し、パートナーとしてより幅広くメンバーを迎え、重要課題ごとにワーキンググループを設けながら具体的な実践を強化することが合意されました。

また、11月30日から12月1日には、ASTAAG会議参加者が被災地(震災遺構荒浜小学校、千年希望の丘、東松島震災復興記念講演震災復興伝承館、東日本大震災メモリアル石巻南浜つなぐ館、旧大川小学校、雄勝湾防潮堤など)を訪問し、東日本大震災の復興状況や日本の防災に関する取り組みについて学びました。柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門)は、宮城県と仙台市と連携しながら、防災観光の取り組みを行っており、今回も視察の企画と各所での説明などを担当しました。また、参加者から防災観光への意見やアドバイスをビデオ収録し、ホームページに掲載するなど防災観光促進のための取り組みを積極的に行っています。

各被災地で、実際に地元の方々の経験を伺い、参加者の方々も実際に視察すると、これまでの理解が十分でなかったことがよく分かったと話されていました。近い将来に同僚や学生と一緒に、ぜひ再訪したいとの声を多くいただきました。



ASTAAG 会議全体写真



ASTAAG 会議の様子



震災遺構荒浜小学校



東松島伝承館



雄勝花物語



旧大川小学校

文責：泉貴子(地域・都市再生研究部門)、柴山明寛(情報管理・社会連携部門)